



学習内容の定着にドリルで学習 ～一人ひとりの理解状況に合った個別指導～

内之浦小学校では、「宇宙に一番近い学校」というキャッチフレーズのもと、宇宙に関する書籍や人工衛星のレプリカなどを校内のさまざまなところに常設しています。今回は、学習内容の定着に活用しているeライブラリの実践をご紹介します。

■ 本時のまとめは、ドリルで学習内容の定着



▲ ブロックのイラストを指で数えて答える

算数 1年：たしざん

めあて たしざんには、どんなひみつがあるかな。

この日の授業は、まとめの時間にeライブラリのドリルで学習内容のたしかめをしました。児童は、タブレットを使った学習が大好きです。ドリルを開き、問題文を声に出して読んだり、ブロックのイラストを指で数えたりしながら、楽しそうに問題を解いていました。

■ 確認テストで単元の理解状況をたしかめる



▲ 確認テストを真剣に取り組む

学習内容のたしかめが終わると、「さあ！今からテストをやりますよ」という担任の先生の掛け声で「確認テスト」が出題されました。画面に表示された先生の問題に、児童からは「先生！早く問題やりたい！」という意欲的な声が挙がります。

「確認テスト」が始まると、これまで学習してきた、たしざんのくり上がりやきまりをふりかえりながら、真剣な眼差しで取り組んでいました。

インタビュー

取り組ませやすく、個別指導の時間確保に

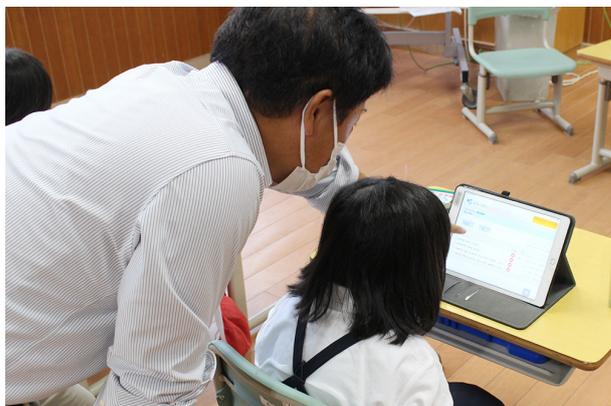
1年生はタブレット操作に慣れることが最初のステップです。これまで、1年生でも操作しやすく、また、学習の補充や理解を深化させるためのICT教材を探していました。eライブラリのドリルは、**1年生でも取り組みやすい操作感と問題のつくりになっているので、タブレットの導入に最適です。また、イラストの選択肢から答えを選ぶ問題は、文字を書く前の補助教材として特に役立っており、1年生だけではなく特別支援学級の児童も取り組みやすい問題になっています。**

eライブラリを利用するようになってから、プリント作成・配布など、教材準備の時間が大幅に減り、業務改善につながりました。その削減できた時間を個別指導へ充てることができ、とても重宝しています。



1年担任
竹内 導久 先生

結果からナビゲートされる復習教材と個別指導の組み合わせ



▲ 手が止まっている児童への個別指導

「児童によって、理解状況や学習のペースはさまざまなので、その子に合った教材で指導をしていきたいです」と竹内先生。「確認テスト」が終わると、結果に応じてナビゲートされる復習教材に取り組むよう声を掛けます。

手が止まっている児童を見かけると、問題文と一緒に読み、考え方を丁寧に解説しています。児童は、正解できたことが自信につながり、次の問題を意欲的に取り組んでいました。

eライブラリと竹内先生のきめ細やかな個別指導がバランスよく合わさり、児童は難しい問題が出題されても、最後まであきらめずにチャレンジしていました。

授業の流れ



先生お手製のたし算カードで前時の復習をする。



たし算カードを黒板に貼り、たし算のきまりを探す。



気づいたことを全員で発表して共有する。



まとめに本時の学習内容をeライブラリで復習する。

先生の工夫

- eライブラリは操作が簡単で取り組みやすいため、タブレット操作の導入に利用している。
- プリントをドリルに置き換えることで、教材準備の時間を短縮している。
- 机間指導をしながら、手が止まっている児童を個別に指導している。

児童の様子

- ドリルで学習するようになってから、自分の力で学習を進める姿が見られるようになった。
- 学習に興味をもつようになり、家庭でも自主的に取り組むようになった。

インタビュー

しなやかに生き抜く子供の育成のために

本校では、「ふるさと肝付を愛し、心身ともにたくましく、しなやかに生き抜く子供の育成」を教育目標として、『しなやかに生き抜く』ことを重要視しています。その背景には、情報化社会・国際化社会の急速な変化に、しなやかに対応していける子供を育てたいという思いが込められています。そのために全職員が一丸となって、一人ひとりの個性を認めて、個別指導を中心とした、才能開発を進めています。

授業では、全国学力調査の結果に沿った指導はもちろんですが、一人ひとりに合った指導方法を充実することを目指しています。eライブラリは、**子供が自分のペースで楽しみながら学習でき、複式学級の間接指導や家庭での自主学習でも効果的に活用できます。**

今後は、デジタルとアナログの特性や良さを組み合わせたハイブリッド学習をこれまで以上に推進し、より良い授業が実施できるようにしたいと考えています。



校長
永峯 光朗 先生